

平成24年度 事業計画書

(財)日本ラグビーフットボール協会

国内大会関係

- 第53回 YC&AC JAPAN SEVENS
4月8日(日) 場所:横浜 YC&AC
- 第13回 全国高等学校選抜大会
3月31日(土)~4月7日(土)
場所:埼玉 熊谷ラグビー場
- ジャパン・セブンズ 2012 高校の部
4月14日(土) 場所:東京 江戸川陸上競技場
- セブンズ フェスティバル 2012 in TOKYO
5月27日(日)
- 第8回全国高等学校合同チーム大会
7月31日(火)~8月3日(金)
場所:長野 菅平高原サニアパーク
- 学生クラブ東西交流フェスティバル IN 菅平 2012
8月31日(金)~9月2日(日)
場所:長野 菅平高原サニアパーク
- 第3回全国中学校大会(中学校の部・スクール部)
9月15日(土)~17日(月)
場所:茨城 ケーズデンキスタジアム水戸
水戸市立サッカー・ラグビー場
- 第67回 国民体育大会(日本体育協会主催)
10月5日(金)~9日(火)
場所:岐阜県 飛騨市:飛騨市数河高原ラグビー場
(成年)
関市:グリーンフィールド中池(少年)
中池多目的広場(少年)
- ジャパンラグビートップリーグ 2012-2013
<リーグ戦> 8月31日(金)~平成25年1月6日(日)
場所:東北・関東・東海・北陸・関西・中国・四国・九州
<プレーオフトーナメント>
・セミファイナル 平成25年1月19日(土)、20日(日)
・ファイナル 平成25年1月27日(日)
場所:東京・大阪
<ワイルドカード>
平成25年1月19日(土)、20日(日)
場所:未定
<チャリティーマッチ> 平成25年3月3日(日)
場所:未定
- 第25回 女子ラグビー交流大会(合同)
11月23日(金) 場所:東京 江戸川陸上競技場
- 第50回 全国大学選手権大会
1回戦 未定
2回戦 未定
準決勝 平成25年1月2日(水) 場所:国立競技場
決勝 平成25年1月13日(日) 場所:国立競技場
- 第92回 全国高等学校大会
12月27日(木)~平成25年1月7日(月)
場所:大阪 花園ラグビー場
- 第92回 全国高等学校大会女子エキシビジョンマッチ
12月末 場所:大阪 花園ラグビー場
- 第5回 U18 合同チーム東西対抗
平成25年1月7日(月)
場所:大阪 花園ラグビー場
- 第20回 全国クラブ大会
1回戦 12月23日(日) 準決勝 平成25年1月13日(日)
場所:埼玉 熊谷ラグビー場・東京 秩父宮ラグビー場
決勝 平成25年1月下旬
- 2012年度全国学生クラブ選手権大会(トライアル)
1回戦:12月中旬 決勝戦:平成25年1月上旬
場所:埼玉 熊谷ラグビー場
- 第9回クラブユース交流試合(兼:クラブユースU-19)
平成25年3月中旬 場所:兵庫 神戸製鋼所(予定)
- 第18回 全国ジュニアラグビー大会
12月29日(土)、31日(月) 場所:大阪 花園ラグビー場
- 第63回 全国地区対抗大学大会
平成25年1月2日(水)、4日(金)、6日(日)
場所:愛知 名古屋市港サッカー場
- 第43回 全国高等専門学校大会
平成25年1月 場所:兵庫県
- 第50回 日本選手権大会(日程未定)
1回戦 平成25年1月26日(土)
2回戦 平成25年2月3日(日)
準決勝 平成25年2月10日(日)
決勝 平成25年2月17日(日)
場所:東京 秩父宮ラグビー場 :大阪 花園ラグビー場
- 第9回 全国小学生タグラグビー選手権大会
平成25年2月16日(土)、17日(日) (日程未定)
- 第14回ジャパンセブンズ大会(女子)
平成25年3月17日(日)
場所:愛知 瑞穂ラグビー場
- 三地域協会対抗試合 詳細未定
九州代表-関東代表
関東代表-関西代表
関西代表-九州代表

国際大会・海外遠征関係

<高等学校関係>

- サニックス 2012 ワールドユース交流大会
4月28日(土)~5月5日(土)
場所:福岡 宗像市 グローバルアリーナ
- 第21回 日・韓・中 ジュニア交流競技大会

- 8月 場所:韓国
3. 高校日本代表・海外遠征 平成25年3月中旬～

<女子日本代表関係>

4. 女子 15人制強化合宿・国際試合
・アジア女子4か国対抗直前合宿
4月・5月・6月
・香港戦(東京):5月19日(土)
・アジア女子4か国対抗(中国):7月上旬
5. 女子日本代表 7人制
・アムステルダムセブンズ(オランダ)
5月19日(土)～20日(日)
・スペインセブンズ(スペイン)
5月26日(土)～27日(日)
・世界大学生セブンズ大会(フランス)
7月11日(水)～13日(金)
・上海セブンズ(中国)
9月22日(土)～23日(日)
・マレーシアセブンズ(マレーシア)
10月中旬
・セブンズワールドカップ アジア予選
強化遠征:10月下旬～11月上旬
・セブンズワールドカップ アジア予選:11月上旬
・ラスベガスセブンズ(アメリカ):平成25年2月上旬
・広州セブンズ(中国)
平成25年3月16日(土)～17日(日)
・IRB Women's Sevens Challenge Cup HongKong(香港)
平成25年3月22日(金)～23日(土)
・IRB セブンズワールドシリーズ日本大会
エキシビジョンマッチ
平成24年3月30日(土)～31日(日)

<7人制日本代表(男子)>

6. IRBワールドシリーズ 東京大会
平成25年3月31日(土)～4月1日(日)
場所:東京 秩父宮ラグビー場
7. U20 アジアセブンズ
・強化合宿:6月16日(土)～22日(金)
大会期間:6月23日(土)～24日(日)
場所:マレーシア
8. 世界大学生セブンズ大会
事前強化合宿:7月5日(木)～13日(金)
大会期間:7月14日(土)～15日(日)
場所:フランス
9. 強化合宿 7月16日(月)～20日(金)
10. アジアセブンズシリーズ マレーシア大会
9月1日(土)～2日(日)
11. アジアセブンズ シリーズ 上海大会
9月22日(土)～23日(日)
12. IRBセブンズワールドシリーズ 豪州大会
10月20日(土)～21日(日)
場所:ゴールドコースト

13. IRBワールドシリーズ ドバイ大会
10月27日(土)～28日(日)
14. セブンズ ワールドカップアジア予選
11月3日(土)～4日(日) 場所:シンガポール
15. IRB セブンズワールドシリーズ 南ア大会
12月1日(土)～2日(日) 場所:ポートエリザベス
16. IRB セブンズワールドシリーズ アルゼンチン大会
12月8日(土)～9日(日) 場所:ブエノスアイレス
17. IRB セブンズワールドシリーズ NZ大会
平成25年2月2日(土)～3日(日) 場所:ウエリントン
18. IRB セブンズワールドシリーズ USA大会
平成25年2月9日(土)～10日(日) @ラスベガス
19. IRB セブンズワールドシリーズ 香港大会
平成25年3月22日(金)～24日(日)
20. フィジー強化合宿 平成25年3月1日(金)～11日(月)
21. IRB セブンズワールドシリーズ 日本大会
平成25年3月30日(土)～31日(日) 場所:東京
22. トライアウト 5月6日(日)/13日(日)

<U20 日本代表関係>

23. 強化試合
第二次強化合宿 4月6日(金)～9日(月)
場所:流通経済大学
第三次強化合宿 4月20日(金)～23日(月)
場所:流通経済大学
第四次強化合宿 6月8日(金)～14日(木)
場所:流通経済大学
24. ウェールズ遠征 5月9日(木)～25日(木)
5月12日(土) 対戦相手未定
5月16日(水) 対 U20 ウェールズ代表
5月19日(木) 対戦相手未定
5月23日(水) 対戦相手未定
25. ジュニアワールドトロフィー2012 アメリカ大会
大会日程:6月14日(木)～7月3日(火)
Pool A(4カ国):トンガ、チリ、ロシア、USA
Pool B(4カ国):日本、グルジア、カナダ、ジンバブエ
6月18日(月) 第二試合 対 ジンバブエ
K.O. 12:00
6月22日(金) 第三試合 対 カナダ
K.O. 14:00
6月27日(水) 第四試合 対 グルジア
K.O. 16:00
6月30日(日) 優勝決定戦
K.O. 18:00
26. U20 ジュニア ワールドトロフィーアジア予選(香港)
7月28日(土)～8月5日(日)

<15人制日本代表>

27. 日本代表強化合宿
4月2日(月)～7日(金) 場所:静岡 掛川
7月14日(土)～20日(金) 場所:長野 菅平
28. HSBCアジア5ネーションズカップ

- 4月18日(水)～5月20日(日) 合宿・遠征
 4月28日(土) 対 カザフスタン
 場所:カザフスタン アルマティー
 5月5日(土) 対 UAE K.O.18:00
 場所:福岡 レベルファイブスタジアム
 5月12日(土) 対 韓国 場所:韓国 ソウル
 5月19日(土) 対 香港 K.O.14:00
 場所:東京 秩父宮ラグビー場

29. IRB パシフィック・ネーションズカップ 2012
 5月28日(月)～7月2日(月) 試合&合宿期間
 6月5日(火) 対 フィジー
 場所:名古屋 瑞穂ラグビー場
 K.O.19:00
 6月10日(日) 対 トンガ
 場所:東京 秩父宮ラグビー場
 K.O.14:00
 6月17日(日) 対 サモア
 場所:東京 秩父宮ラグビー場
 K.O.14:00

30. リポビタンDチャレンジ
 6月17日(日)～7月2日(月) 試合&合宿
 6月23日(土) 対 ロシア
 場所:東京 秩父宮ラグビー場
 K.O.18:00
 7月1日(日) 対 ロシア
 場所:宮城県 仙台
 K.O.14:00

31. 欧州遠征
 10月30日(火)～11月26日(月)
 11月10日(土) 対 ルーマニア 場所:ブタペスト
 11月17日(土) 対 グルジア 場所:トリビシ
 11月24日(土) 対 対戦相手未定

各委員会関係

各委員会・各部門は次の事業を実施する。

1. 管理委員会

(1) 法務部門

- ① 業務委託、スポンサー契約等の典型例の雛形化
- ② 協会の判断・決定に関する紛争の法廷闘争化防止のためのスポーツ仲裁機構の有効活用を検討する。
- ③ その他必要事項を実施する。

(2) 財務部門

財務面から協会運営における課題の検討と助言を行う。

- ① 2019WC開催に向けた財務戦略の実行
 ・収益/コスト構造の把握と改善課題の抽出
 ・収益/パフォーマンスを基準とした予算管理
- ② H24年度予算の執行状況のモニタリング

- ③ H25年度計画に向けた枠組・課題検討
- ④ 各委員会の事業への助言、支援
- ⑤ 監査委員会との連携、協力
- ⑥ 公益法人化への協力、等

(3) 環境部門

『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を積極的に図る』

① 事業活動

- ・日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- ・地球温暖化防止のための国民運動『チャレンジ 25 キャンペーン』(環境省主管)加盟メンバーとして環境保全活動及び省エネルギー啓発の推進継続
- ・各委員会との連携・協力体制により環境PR活動の推進を図る
- ・日本代表チーム、トップリーグとのコラボレーションによる相乗効果を図る
- ・JOC、日本スポーツ振興センター、環境省等との連携
- ・JOC、環境省主催の環境会議・セミナーへの積極的参加と他団体の取り組み事例の研究継続
- ・2016年リオデジャネイロオリンピック、2019日本WC杯に向けての環境PRの発信

② 具体的実施計画

1) 広報活動(環境啓発PR)

- ・広報委員会との連携によりHP、機関紙、プログラム、メンバー表等の活用
- ・公式試合開催時における観客・ファンへの環境啓発活動の推進
- ・環境横断幕(08年作成済)掲示、ポスター掲出活用、試合時大型モニター・MCの活用、環境省とのタイアップによる「チャレンジ25」PRブース出展等
- ・「FOR ALL, FOR EARTH.」の日本協会タイラン活用。
- ・「チャレンジ25キャンペーン」の露出PR

2) 秩父宮ラグビー場での「エコキャップ運動」の継続とキャップ回収実績、資源再利用による提供ワクチン数、CO2削減数値のHP上での定期的報告

- 3) 協会役員・選手・関係者・ファンへの「チャレンジ25」参加への呼び掛け
- 4) 省エネルギー、エコ商品利用、試合観戦時の公共交通機関利用の推奨
- 5) 使用済ラグビー用品(ボール、スパイク、ジャージ等)のエコ利用例の研究調査
- 6) すべての実践活動を広報PRに連動させ、更なる環境啓発に向けた相乗効果を図る

(4) 新公益法人部門

- ① 新公益法人設立・承認に向けての検討および定款の作成(現所管省庁である、文部科学省の指示・指導を含む)
- ② 決定した定款の提出(内閣府)
- ③ 新公益法人としての承認を受けての協会内諸規定の整備 その他

2. マーケティング委員会

1. マーケティング収入の拡大のための施策

厳しい経済状況下で協賛収入を増加させるべく、昨年度に引き続き以下の施策を行う。

①新規セールスコンテンツの開発

2019年RWC日本開催、男女7人制ラグビーオリンピック種目化、IRB セブンズワールドシリーズ日本ラウンド開催をラグビー協賛のビジネス価値向上の機会と捉え、新たなコンテンツ開発と価値創造を行う。また従来の広告露出型協賛から社会貢献型協賛への変革を図り、企業のCSR向上のためのコンテンツとしてのセールスアプローチを行う。

具体的には以下の通り。

- ・2019年に向けた普及育成プログラムの開発とセールス
- ・7人制ラグビー新規大会「東京セブンズ」セールスと2013年大会に向けたスポンサー候補企業に向けたアピール
- ・7人制、15人制女子日本代表チーム、及び女子ラグビーのスポンサー獲得
- ・継続及び獲得に成功した日本代表スポンサーの2012年以降のスポンサープロモーションの拡大によるチーム認知の向上
- ・女子ラグビー支援スポンサー発掘
- ・BtoBなどスポンサー企業ビジネスの直接または間接的なメリットとなるセールス物件の開発

②現行コンテンツ「横断幕広告」のプロモート

協賛企業の業績悪化やメディア露出不足等の理由から協賛金の減額を強いられているが、後述する幹部によるアプローチを軸に改善の交渉を行う。

2. セールス体制の強化

①協会幹部と協賛社幹部のパイプ作り

昨年度に引き続き幹部間の交流を行い、代理店の機能を生かしながら協賛社との関係強化を図る。また関西、九州地区をはじめとする地方スポンサー企業に対しても、細やかな対応を行い、ラグビーへのロイヤリティ向上に努める。

②電通をはじめとする各広告代理店との連携

前述の新規コンテンツ開発やセールスに当たっては、各代理店の企画力、営業力の更なる発揮を、競争意識を煽りながら促す。また協会幹部と各代理店との連携したセールスアプローチを強化する。

3. 事業ごとの黒字化への貢献意識

事業部や各部門と連携し、各事業におけるマーケティング収入目標の明確化と支出軽減に如何に貢献できるか具体的な検討と実践を行う。特に商業的価値が示しづらい事業においても、物品、人材、サービスの提供といった協賛獲得の可能性を検討し、各部門の支出軽減への貢献を図る。

具体的には、各種大会や事業について協賛金獲得を目指すばかりではなく、運営に必要な物品、サービス、

人材、施設等の提供を広く求め、運営収支改善と質的向上を図る。又、事業期間中に進捗状況の計数面でのフォローを行うと共に、事業終了後当初の計画・意義目的の検証を行う。

4. 日本代表戦地上波放送

ラグビーワールドカップNZ大会の翌年にあたり、露出機会が減少しがちな日本代表戦のメディア露出を図る。特にエディ・ジョーンズ新ヘッドコーチの下、新たなスタートを切る日本代表のメディア価値最大化に努め、4、5月A5N、6月PNC及びリポビタンDチャレンジでの地上波放送の実現に向け交渉を行う。

5. テレビ放映権契約改定

本年8月で契約満了を迎えるJスポーツの放映権契約改定業務を、放送事情の変化及びNHKとの共催事業との整合性を鑑みながら行う。具体的には昨年10月からJスポーツがBS放送に移行したためNHKと契約上の調整が必要となる。本件はマーケティング収入の根幹を為す案件であると同時に、プロモーション上も大きな影響を持つため、法務関係者との連携を密にしながら綿密な交渉を進めたい。同時にNHKとの共催事業契約についても、共催条件の見直し等の交渉を行う。

6. その他

販売後のスポンサーフォロー、特に権利行使、保護やホスピタリティを代理店の協力の元に確実に実行しスポンサーからの信頼獲得に努めると共に、継続した協賛獲得による事業の発展を目指す。また過去の実績企業や将来見込まれる企業に対しても継続的なコミュニケーションを行い、常にセールスの最大化を意識した活動を行う。

3. 広報委員会

1. 事業方針

日本ラグビーフットボール協会の理念、ビジョン、ミッションの具現化を基本に、あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションに努め、社会から好意・好感を得るための広報施策を積極的に展開し、あらたなラグビーファミリー増大につなげる。さらに、中長期的に日本ラグビーのブランディング活動を継続実施する。

2. 活動の目標

- (1) マスコミとの良好な関係作り
- (2) ラグビーファミリーの増大に資する報道対策
- (3) 日本ラグビーのブランディングへの取り組み
- (4) インナー広報体制の確立
- (5) 2019RWC日本開催を見据え、組織委員会との広報プロモーション活動の連携

3. 活動施策

協会運営・企画広報

- (1) マスコミとのリレーション

① ラグビー担当記者の組織化と継続的、良好な関係

- 作り
- ②運動部長クラスとの交流…マスコミ懇談会の開催
- ③トップ広報…報道機関への挨拶回り
- (2) 日本ラグビーのブランディング
 - ① ブランド・ポジションの把握
 - ② ブランド目標の設定とアクション・プランの策定
 - ③ 日本代表のブランディング
- (3) 広報戦略の企画・立案
 - ① 2019RWC組織委員会と連携した、中・長期的なメディアプランの企画・立案
- (4) インナー広報体制の確立
 - ① メール機能による三地域・都道府県協会への情報発信体制の確立
- (5) 各部門への広報支援
 - ① 理事会
 - ② マーケット、事業・プロモーションとの連携
 - ③ 日本代表事業
 - ④ トップリーグ事業
 - ⑤ 競技力向上部門
 - ⑥ その他
- (6) 各部門との連携
 - ① RWC2019組織委員会
- (5) 危機管理広報
 - ① 危機管理広報対応
 - ② 各層代表へのリスクマネジメント広報講習
 - ③ 協会全体へのリスクマネジメント広報ガイドラインの検討・作成

情報管理

- (1) Web サイトの管理・運営及び情報基盤の整備
- (2) 魅力ある Web サイトの作成
- (3) 読まれる機関誌の作成

日常広報業務

- (1) 取材(会見)対応
- (2) ニュース・ソースの発掘
- (3) ニュース・リリースの作成・配信

4. 事業委員会

トップリーグを含む全ての日本協会主催試合及び大会の事業企画、運営を遂行し集客・収益の拡大を目指す。

1. 目標値

- ①集客目標 700,000 人

	目標	前年比
国際試合	700,00 人	243%
トップリーグ	400,000 人	118%
大学選手権	105,000 人	147%
日本選手権	60,000 人	133%
セブンズ大会	65,000 人	4741%
合計	700,000 人	144%

- ②収益目標 404 百万円
- ③国際試合 5月 A5N 2試合
6月 PNC大会 3日間
リポDチャレンジ 2試合
国際部と連携し中長期にわたる国際試合計画を立案する。
- ④大学選手権・日本選手権について
大学選手権・日本選手権の集客・収益向上のための諸施策を実施する。
大学選手権大会方式の改編を実施する
- ⑤セブンズ大会
H23年4月、H24年3月SWS東京大会の開催
5月 セブンズ・フェスティバル
- ⑥トップリーグ 別掲(トップリーグ部門)
- 2. 前条1の数値目標を達成するためのチケットイング・プロモーション活動を企画・推進し2019年に繋がる中長期の集客拡大策を展開する。
- 3. メンバーズ会員の増大を進めるとともに、新規ファン獲得施策により収益増を目指す。
新たなメンバーズ組織(モバイルコンテンツ)を導入し、更なるメンバー増を図る
- 4. 全企業内容の見直しを行い、経費削減を行う。

[1] 企画・競技運営部門

- ①日本協会主催試合出の企画・競技運営を実行し、選手及び観客が満足する試合環境を実現する。
- ②効率的な試合運営を行い試合経費の削減を図る。

[2]. 国体部門

- (1)第67回国体開催に関する打合せを実施する。
 - ① 岐阜県実行委員会
 - ② 関市実行委員会
 - ③ 飛騨市実行委員会
 - ④ 関西ラグビーフットボール協会
 - ⑤ 岐阜県ラグビーフットボール協会
- (2)平成25年度以降の開催予定県との打ち合わせを行う。
・東京都(25年)・長崎県(26年)・和歌山県(27年)
- (3)平成30年第73回国体予定地(福井県)の競技会場視察を実施する。
- (4)国体部門会議の開催
・7人制導入に伴う諸問題や、その他の事項を検討する。
- (5)第67回国民体育大会について
大会期間:10月5日(金)～10月9日(火)
 - ①組み合わせ抽選会 9月9日(日)午後1時～
・(財)日本ラグビーフットボール協会 会議室
 - ②代表者会議 10月4日(木)午後3時
・(成年)飛騨市 数河緑地管理中央センター
・(少年)関市 関市文化会館 小ホール
 - ③表彰式 10月9日(火)12:00～
・(成年)飛騨市 数河高原ラグビー場
・(少年・総合)関市 グリーンフィールド中池

(6)開催地との意見交換会

・10月8日(月) 18:00～ 場所未定

(7)第68回東京都開催に於ける強化コーチの育成事業を行う。

【3】. 社会人部門

1. トップリーグを除く社会人ラグビーを発展させるための諸施策を実施(三地域協会との連携)
2. 第53回 YCAC 7人制大会への協力
(4月8日開催: 横浜 YCAC)
出場チーム 計16チーム(大学11、社会人3、クラブ2)
3. 主要試合等に社会人チームへ観客動員の協力依頼をする
4. 第67回 国民体育大会(岐阜県開催)への協力・参加
5. その他必要事項を実施する

【4】. 大学部門

1. 大学選手権大会方式を改編する
2. 試合日程等(地域協会含め)を検討する
3. 交流試合を実施し、強化につなげる
4. 大学チームへ観客動員策を実施する
5. その他必要事項を実施する

【5】. クラブ部門

1. 普及活動

高校生・大学生の卒業後のラグビーの受け皿としての、役割を再認識し、各県クラブ委員会と連携し、高校生・大学生へのクラブの認知度の向上をはかり、高校生・大学生のクラブへの加入を促進する。

また、「組織力のあるクラブチームの育成」「魅力ある大会づくり」「安全なラグビー」を実現し、ラグビーの普及をはかる。

①高校生、大学生への認知度のアップ

- ・高校生との合同練習の実施
- ・高校生へのラグビー指導
- ・高校の先生と連携し、卒業生のフォローアップ
- ・大学クラブと協力し、新入学生へのチラシ配布・メール等による勧誘活動。

②組織力のあるクラブチームの育成

- ・チーム名に「地域の名前を冠する」など様々の方法で地域に寄り添い、地域・行政との連携を深め、地域の方々へのラグビーへの理解を深める。
- ・地域の青少年へのラグビー指導、ラグビー精神の伝達を行い、青少年の健全育成に貢献し、地域・行政から尊敬を受ける存在となる。
- ・クラブ運営のノウハウの伝達と、クラブ運営の人材の確保と育成をはかる。
- ・クラブの法人化(一般財団法人・NPO法人)をはかり、組織強化をはかる。

③「魅力ある大会づくり」

「全国大会」「地域トップクラブ大会」をさらに魅力ある大会とし、社会人・大学生・高校生のトップレベルの選

手の受け皿として機能を高めクラブの強化と普及をはかる。

- ④1人でも多くの選手がラグビーができる環境をつくる。
県大会等のレベルの大会では、人数が足りないチーム、スタッフ・指導者がいないチーム・選手でも、試合に参加できる大会づくりを行う。

⑤「安全なラグビーの実現」

- ・安全教育の徹底
- ・無理のない大会づくり
- ・レフリーの養成と向上をはかる

レフリー養成では、クラブは「帯同レフリー制度」を10年前より実施しレフリーの養成に力を注ぎ、多くのレフリーを輩出してきたが、安全の観点からも「帯同レフリー制度」をさらに進めレフリーの養成に努める。

2. パートナースクラブを核として「7人制ラグビーの普及・強化」

2011年度は、パートナーズクラブの講習会が開催され、パートナーズクラブのレベルアップにつながった。
パートナーズクラブが獲得した、指導法等のコンテンツを、地域協会、県協会を通して、他のチームへ伝達し全体のレベル・意識をあげる。

3. クラブ大会の開催

①第20回全国クラブ大会 会場:熊谷、秩父宮

- ・1回戦:平成24年12月23日(日)
- ・準決勝:平成25年1月13日(日)
- ・決勝:平成25年1月下旬
- ・参加数:6チームによるトーナメント戦
優勝チームは日本選手権への出場権を獲得する。
※20回大会を記念し、全国大会を通しての「普及」「強化」のためのカンファレンス・懇親会を実施。

②学生クラブ東西交流フェスティバル IN 菅平2012

- ・8月31(金)～9月2日(日) 場所:菅平サニアパーク
- ・参加数:40チーム(予定)
- ・菅平合宿の時期をとらえ、学生ラグビーの振興と普及を目的とした大会とする。
- ・学生実行委員会を組織し、学生自身が主体的に関わり大会運営を行う。
- ・単なる競技会ではなく、学生向けのレフリー講習会、安全対策講習会、スキルアップ研修会などを組み込んで学生クラブの資質の向上を図る。

③2012年度全国学生クラブ選手権大会(トライアル)

- ・1回戦 12月中旬 熊谷
- ・決勝戦 1月上旬
- ・関東-関西-九州の学生クラブの代表チームによる大会を実施し、大学クラブの普及・強化をはかる。

④第9回クラブユース交流試合(兼:クラブユースU-19)

- 24年3月中旬 場所:兵庫・神戸製鋼所を予定
- ・ラグビー部のない高校生がラグビーをやる場として、各地域に高校生のためのクラブ組織が誕生している。公式な試合会場の提供によるクラブユースの普及発展と拡大、大会の認知を図る。

【6】. トップリーグ部門

トップリーグ中長期事業計画に基づいた活動の展開。特に、事業企画&事業プロモーションと併合されたことによる相乗効果を狙う。

1. 2012年度 集客目標 40万人以上
2. 2012年度 FOR ALL活動
 - ・FOR ALL活動の拡大・充実
 - ・ファン・日本協会関係者、地域協会関係者、加盟企業、選手に至る幅広い展開
 - ・活動の継続とさらなる発展を狙う。
3. トップリーグ事業部門の充実
 - ・広報・普及活動並びに試合運営の精度をさらに向上させる。
4. 社会貢献活動への取り組み
 - ・チャリティーマッチの開催
 - ・TRY FOR GREEN活動展開
 - ・チャレンジ25への参加
5. 地域協会、開催地協会との連携強化
 - ・開催会場に対し、試合運営に関わる諸課題を共有化し、観客や選手に喜ばれる環境の整備
 - ・広報、普及、集客等、試合運営精度の向上
6. 会場開催地の決定
 - ・集客率の高い会場の設定
(カーディング精度の向上)
 - ・経費効率を考慮した会場決定
7. 加盟企業との連携
 - ・各種会議の開催
 - ・各種普及活動並びイベント等の協力協働作業
8. 広報分野の強化
 - ・TV等への浸透策の検討と実施
 - ・新聞、雑誌等への露出拡大策の検討と実施
9. 普及分野の強化
 - ・集客を念頭に入れた普及活動の展開
 - ・地方会場での集客活動の強化
 - ・FOR ALL活動の強化
 - ・ラグビーの普及
10. 日本代表活動への協力
 - ・加盟企業による代表活動協力体制の強化
11. 2013年度からの次の10年に向けてのリーグ改革案を策定する

5. 普及・競技力向上委員会

1. 競技力向上部門

<活動方針と目的>

男子15人制 2015年W杯2勝以上、2019年W杯において日本代表チームのベスト8進出、男女7人制日本代表が2016年オリンピックにてメダルを獲得するためのグランドデザイン・キャリアパス設計と将来日本代表を担えるプレーヤー発掘・育成のための以下の事業を展開する。

- ①男子15人制強化スキーム構築及び年代別強化
- ②男女セブンズアカデミーとパートナークラブを強化のコ

アに据え、中学生世代からセブンズの接点を増やし、計画的に将来のセブンズ日本代表を担うプレーヤーを育成していく

③パートナークラブの活動推進

<具体的な取り組み>

- ① 男子 15人制年代別代表チーム(U15、U17、U20)、男子7人制学生代表チーム強化プラン策定
- ②U16、17ブロック合宿、U17合同大会/合宿、高校三地域大会実施
- ③TID合宿実施
- ④ナショナルセブンズアカデミー、トライアウト、パートナークラブプレーヤー対象トライアウト、パートナークラブへのコーチ派遣(男女)
- ⑤パートナークラブの運営による、エリアセブンズアカデミー創設
- ⑥コーチ部門との連携による、セブンズコーチ育成(ナショナルセブンズアカデミー活用)

2. コーチ/一貫指導部門

<活動方針と目的>

目的:2019W杯に向けた指導者の養成

目標 : 1. 日本代表監督になりうる指導者を育成する。

2. 公認指導者数を1.1万人にする。

基本理念 : 自ら考え成長し続けるコーチの養成

【重点課題】

・資格認定事業(指導者養成)

・CPD事業(研修会開催)

・エドゥケーター養成・研修事業(講師養成)

日本ラグビーの「一貫指導体制」確立に向け、「自ら考えて成長しつづける指導者づくり」を方針とする指導者育成を推進する。コーチングディレクター・リソースコーチによる、各カテゴリーへの指導者育成支援、およびコーチ資格保有者へのブラッシュアップ研修を広く展開する。また、コーチネットの開設により、資格保有者への情報提供や、双方向からのコミュニケーションを図ることを目指す。2019年へ向けた戦略計画より20万人の競技者拡大に連携した指導者育成計画として、選手10人に対して1名の指導者を育成することを目指す。

- ① コーチネットの運用と情報提供
- ② リソースコーチによる高校9ブロックへの一貫指導
- ③ リソースコーチによるコーチ資格保有者へのブラッシュアップ研修の実施

<具体的な取り組み>

(1) 指導者育成

- ① 強化コーチ養成講習会の開催
- ② 育成コーチ養成講習会の開催
- ③ 新スタートコーチ養成講習会の開催
- ④ IRBトレーナー・エドゥケーター養成講習会の開催
- ⑤ 各種講習会へのコーチ派遣
- ⑥ 女子委員会 指導者養成支援

(2) 研修会開催

- ① トップチームコーチ会議

- ② トップチームコーチ資格取得研修会
- ③ ブラッシュアップ(義務化に伴う再研修)研修会
- ④ 三地域都道府県委員長会議
- ⑤ IRBトレーナー研修会

(3) コーチング研究

- ① IRB コーチ養成に関する会議への参加

② 指導教材の開発

(4) コーチング出版関連

- ① 講習会用マニュアルの作成

(5) 会議開催

- ① 部門全体会議

- ② 部門内小会議

(6) コーチ資格義務化に伴う事業

- ① 有資格者登録管理システムの管理

- ② コーチネット サービス

3. 科学／国際技術／情報・AIR 部門

<活動方針と目的>

2011 ワールドカップ検証から2015年・2019 年度ワールドカップへ向けた日本ラグビーの戦術・技術分析および2016五輪に向けた7人制の戦術・技術分析、そしてレフリーに関する調査研究を行う。特にメンタル及び創造力育成に向けたプログラム開発にも重点を置き、エビデンス情報を国際論文誌へ投稿し実践研究の展開を図る。

アジアにおける強化及び普及に向け、共同・連携する中長期ビジョンのプラン・モデル構築に着手し、主導的機能を果たす。

- 1. 15 人制ラグビー戦術・技術展開に資する日本独自のエビデンス情報を構築する:2011ワールドカップ分析、ジャパンラグビートップリーグ・大学・高校・女子分析、強豪ユニオン分析からの情報科学部門独自の視点を深耕する。

- 2. ラグビー科学研究24巻を発刊する。

- 3. 『技術分析』および『社会的機能分析』に関連する国際学会活動への支援

- 4. 文科省、JOC、JISS との連携強化により7人制を中心とした強化および普及に必要な実践研究を行なう。

- 5. 普及部門との連携

- 6. グランド・芝環境研究

<具体的な取り組み>

- 1. 委員会・担当部門会議・小委員会の開催
- 2. 2015・2019(15人制)、2015(7人制) 技術・戦術展望
- 3. 異競技、異組織との連携構築
- 4. 情報支援: 情報科学・組織経営情報ニュース
- 5. (AIR) 連携組織との実践関係構築: JISS, JOC 等
- 6. (AIR) アジア各ユニオンへの情報提供
- 7. (AIR) IRB 向けのアニュアルレポート
- 8. (AIR) AIR の自律組織化

<研究テーマ>

- 1. ゲーム・スキル(ハンドリング・キッキング・コンタクト) 開発研究
- 2. メンタル・創造的意思決定素養開発

- 3. レフリーング・ルーリング研究
- 4. タレント発掘育成・一貫指導研究
- 5. 体力・形態学研究

4. 普及育成部門

<活動方針と目的>

普及育成の目的は、主に小中学生の競技人口を増加させると共に安全かつラグビー憲章に則ったラグビーを普及し、将来日本ラグビーを発展させる基盤をつくることである。また、各事業はJRFU戦略計画2010-2019年の実効性を高めることを意図している。

本年度計画に続き、24 年度も小学校体育へ進出、中学生競技人口増加、戦略室事業との連携に軸に全国の都道府県協会の普及活動との連携を高め、日本ラグビー発展の基盤強化に取り組む。

各部門(ジュニア・ミニ・タグ・RDO)の活動報告を集約し「普及白書」作成をすすめ、2019 年に向けた中期計画の実績を積み上げていくことに取り組む。

RDO事業

三協会へ配置されたRDO・役割等をホームページ等で全国的周知し、試験的实施に取り組む

- 三協会に配置されたRDO担当職員との業務内容等の擦り合せ及び意見交換等の為の会議を四半期ごとに開催する。

- 三協会の各管内における事務連絡・資料送付及び日本協会との事務連絡等を密に行い、十分な意思疎通を図る。

- 上記三協会の活動に加え、専従RDO(無給)として適任と思われる人材の発掘活動に努める。

5. 小学生部門

<活動方針と目的>

本協会の活動方針である「JRFU 戦力計画に基づく競技人口の拡大と、一貫指導体制の構築へ向けた指導者養成にむけた取り組み」を踏襲しつつ、具体的な方策を講じていく。つまり、ラグビースクールのプロモーション力の強化、一貫指導体制にともなうミニラグビーの目指すプレースタイルとその他の指導法の構築、またラグビースクールに所属する小学生や彼らを取り巻く周辺層の人たちがラグビーと楽しくかかわれる「場」の創出を目指すことで、ラグビーファミリーの増大を図る。

- ①ラグビースクールプロモーション講習会の開催(ラグビースクールのマネージャー対象)

- ②ラグビーを楽しめるルールの検証 →今年度改訂済みで削除

- ②ミニラグビー指導書の作成と活用事業

- ③各カテゴリーの「場」の創出(全国大会等)

- ④全国規模でのミニラグビープレーヤー対象のアンケート調査の実施

- ⑤小学生が積極的にラグビー観戦したくなるような施策を講じる

⑥一貫指導体制の確立

＜具体的な取り組み＞

- ①「ラグビースクールプロモーション研修会」の実施(ラグビースクールのマネージャーを対象に各スクールがさらに活性化するための施策を講じ、競技人口、ラグビーファミリーの増大に寄与する)
- ② ミニラグビー競技規則のルール検証 →今年度改訂済みで削除
- ③ 現在コーチ部門で作成中の一貫指導体制に伴った指導方針に沿った指導者講習会の開催
- ④ 三地域ミニジャンボリー大会の開催
- ⑤ チーム・選手への試合観戦機会の提供と集客協力(試合開催日の試合観戦案内)については復興支援もかねた手厚いサポートをしていく必要がある。
またミニラグビー指導書については前回作成から10年が経過し、在庫もない状態が続いている(2002年度版はPDFファイル化しコーチネットからダウンロードできる)、今後、一貫指導体制構築に伴い、それに即したものを作成し提示していく必要がある、そこで現在コーチ部門で作成中の一貫指導体制に伴った指導方針に沿った指導者講習会を開催することで、指導者の指導力のレベルアップを図り、①と②で車の両輪のようにラグビースクールの活性化を早急に実現していきたい。

6. 中学生部門

＜活動方針と目的＞

1) 本年度基本方針の策定

JRFU戦略計画2010-2019の中学生部門での認識を高める為、行動方針を継続的に実施

2) 周知徹底と統一した認識の共有

本基本方針は、継続的に日本協会中学生部門の委員会で具体的な施策を検討、三地域協会の中学生部門の担当委員会、及び当該支部協会の担当委員会と連携を密にして認識を共有

3) 検証と再検討、次の施策への循環

引き続き日本協会の具体的な施策について、当委員会と三地域協会、支部協会の担当委員会が連携して実施、結果を継続的に検証、再び本中学生部門の委員会で議論の上、次の施策を検討、策定

1. 前後世代との連携強化による一貫体制の構築

本年は特に一貫指導体制に基づいた「ジュニアラグビー指導の手引」をリニューアル、小学生、高校生世代との一貫性のある合理的な指導体制を構築

2. =拠点整備= 都道府県 U15 ジュニアトレセン

中学生部門の中核として、全国の中学生に公平なラグビー競技活動の場を提供することを目的に、各支部協会に同計画の活動を提案、同活動を支援
最終的な活動の発表の場として全国ジュニア大会を位置同計画を推進し、以下の目的を達成

- 1) ジュニアラグビー競技の普及促進(競技者数増加促進)
- 2) 中学生ラグビー選手の育成

3) ジュニアラグビーの競技力向上

3. 指導者の知識と指導力向上

指導者育成の為のジュニアラグビー指導の手引リニューアル(含むDVD化)と指導者講習会の整備と強化

- 1) ジュニアラグビー指導の手引をリニューアルし、同年代の指導者に統一した合理的な指導方法を周知
- 2) リニューアルした指導の手引を活用、U15 ジュニアラグビー指導者講習会の合理的カリキュラムを確立
- 3) 高校部門のU17、U16の9ブロックでの指導者講習会への中学生部門の指導者の参加
- 4) 日本協会のリソースコーチ、S&C コーチの方々を講師とし、日本協会の一貫指導体制下での指導者育成プログラムを受講できるよう計画
- 5) 将来的にはコーチ資格制度における指導者研修会とリンクした指導者研修体制を検討

4. =競技人口増加=中学生ラグビー発展のための、大会の整備と拡大

- 1) 太陽生命カップ2012 第3回全国中学生大会の予選を含めた大会整備と拡大
 - (1) 地域予選(選考試合)の整備と予選参加チーム数増大を図る
 - (2) 本大会の充実
 - (3) 中学生と地域との連携による大会推進
 - (4) 大会の周知を図り、社会の認知を高める
- 2) 第18回全国ジュニアラグビーフットボール大会の改革
 - (1) 地域予選の整備と予選形式の統一化を検討
 - (2) 都道府県 U15 ジュニアトレセンと連動させ、大会の実効性を高める

5. =国際交流=U15 日本代表編成と国際人の養成

RWC2019の日本開催を見据え、U15 日本代表チーム編成の検討と国際交流を図ることにより、この世代から国際人としての人格形成と国際的なスポーツ選手養成の基礎を作る。これによってホスト国としてふさわしい国際人を養成

6. その他事項

- 1) 複数登録制度の基盤整備と厳格履行
- 2) ジュニアラグビー競技規則の継続的な検討
- 3) ラグビースクールにおける女子選手の受け皿 ～男子中学生の中での女子選手の適性年齢～
- 4) ジュニアラグビーの競技規則とフルラグビー(15人制)～適正な競技形態の継続検討～
- 5) 7人制ラグビー大会の試験的実施と検討

7. タグラグビー部門

＜活動方針と目的＞

JRFU戦略計画2010-2019が掲げる競技人口20万人拡大に向けて、子供達への普及を中核にしつつ、老若男女すべてへのラグビー文化普及の入り口としてタグラグビーが果たしうる役割を自覚し、タグラグビーの学校教育現

場への普及、生涯スポーツ現場への普及、全国大会をはじめとする諸大会およびタグフェスタ等のイベント事業による認知拡大をこれまで通り継続していく。

この計画の中心として位置づくのは学校、特に小学校教育現場への普及である。最終的には、2019年に全国22,000余校の小学校全ての体育授業においてタグラグビーが教えられることを目指している。2008年改訂の学習指導要領が完全実施された平成23年度に北海道、青森県、千葉県、東京都、静岡県、和歌山県、島根県、愛媛県の248校(全小学校の1%強)を対象に行われた調査では、その30%の学校でタグラグビーは体育授業のカリキュラムに導入されていた。この数値が、2015年までに50%に達することを目指す。

そのため、平成23年度末までに全国8ブロックすべてで実施されたエデュケーター養成講習の再度の実施による人材育成を進めるとともに、ティーチャー養成研修が未開催の22県における実施を重点課題とする。特に、未開催県が多いブロックのエデュケーター講習を起点にして、未開催県での実施を担える人材の育成に力を入れる。

東京都港区をモデルケースに進めてきたスポーツ推進委員(旧・体育指導委員)を対象としたタグラグビー指導法研修会を他地域まで広げていくことにより、学校教育現場とは異なる生涯スポーツ現場への普及も進める。

サントリーカップ全国小学生選手権大会の開催に向け、大会参加者の拡大と大会認知度のさらなるアップに取り組む。また、その他のローカル大会やタグフェスタ等のイベント事業の持つ重要性を再度確認し、それらがミニ、ジュニア、女子ラグビー、7人制へ連続していく効果的な在り方を検討する。

〈具体的な取り組み〉

全国22000余校の小学校教員を主たる対象としたティーチャー養成研修の47都道府県での実施および、その他、地域の生涯スポーツ関係者等に対する指導法研修を担える人材育成のために、全国8ブロックでのエデュケーター養成講習を実施する。

1. エデュケーター養成講習の実施について

47都道府県全てでの実施が目指されているティーチャー養成研修を、日本協会のタグラグビー普及方針に則って企画・運営し、研修会に参加した小学校教員その他に対して良質で均質の指導を行うことができる指導者(タグラグビーエデュケーター)を、全国8ブロック(北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州)ごとに養成する。特に24年度は、ティーチャー養成研修未実施県への配置を最優先課題とする。

2. ティーチャー養成研修の実施について

全国47都道府県全てにおいて、タグラグビーエデュケーターによる日本協会タグラグビー部門作成の統一プログラムによる研修を実施する。未開催県の実施に当たっては、必要に応じて日本協会からエデュケーターを派遣して支援する。エデュケーターによって指導される各地

でのティーチャー養成研修を受講した小学校教員等の参加者には、小学校の体育授業でタグラグビーを教える基礎的な知識と実技指導能力を習得した者として、タグラグビーティーチャー認定証を付与する。

3. 取り組む項目

- ①全都道府県で各協会主催のティーチャー養成研修の企画および実施(特に未実施県の開催を重点目標とする)
- ②教育委員会等からの依頼研修会に対する各協会の対応(ティーチャー養成研修とタイアップする場合あり)
- ③エデュケーターの養成と各協会への配置(特に未実施県への配置に力点を置く)
- ④研修で使用する指導資料の改訂と増刷(DVDの増刷を含む)
- ⑤日本協会サイトの改訂(指導案等のアップの検討を含む)
- ⑥教育現場への道具提供に関する用具メーカーとの協議
- ⑦サントリーカップの実施(今後のよりよい在り方の検討を含む)
- ⑧ローカル大会およびタグフェスタ等のイベント事業の推進

8. ハイパフォーマンス部門

(1)U16/U17 ブロック合宿

- 4/28-4/30 U17 北海道
- 5/12-5/13 U17 四国
- 6/8-6/10 U16/U17 近畿
- 6/15-6/17 U17 関東
- 6/15-6/17 U17 中国
- 6/22-6/24 U17 北信越
- 6/29-7/1 U16/U17 東北
- 6/29-7/1 U16/U17 東海
- 7/7-7/9 U16/U17 九州
- 9/7-9/9 U16 関東
- 11/3-11/4 U16 北海道
- 12/14-12/16 U16 東海
- 3/9-3/10 U16 四国
- 3/22-3/24 U16 中国
- 3/23-3/25 U16 北信越

(2)U17合同合宿

7/29-7/31 菅平

(3)コベルコカップ(U17合同大会)

7/31-8/3 菅平

(4)U18トライリージョンズ(東・中・西対抗戦)

6/22-6/25 場所未定

(5)タレントIDキャンプ

8月上旬 場所未定

(6)ユースコーチ研修会

4/24-4/26 場所未定

(7)リソースコーチ研修

4/14-15 場所未定

2月予定

(8)セブンズアカデミー

男子:5月、8月、12月、3月予定

1月遠征予定

女子:5月、7月、9月、12月、1月、2月、3月予定

1月遠征予定

メディカル委員会

1.メディカル部門

<活動方針と目的>

三地域協会および都道府県医務委員会間の整合性をとりながら広範な医学的支援を行う。

- ① 三地域連絡協議会の開催
- ② 日本協会主催試合医務担当
- ③ 日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征帯同ドクター派遣)
- ④ トップリーグメディカルコントロール部会担当
- ⑤ マッチドクター(チームドクター含む)の養成
- ⑥ ラグビーフォーラムの開催
- ⑦ AIRへの協力
- ⑧ JOC、体協、JISSとの連携強化および他必要な事業
- ⑨ 女子委員会への医学的支援

<具体的な取り組み>

- ① 委員会・医事担当部門会議・三地域連絡協議会
- ② 医務担当・日本協会主催試合(主管協会と連携)
- ③ 日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征)

2.トレーナー部門

<活動方針と目的>

トレーナー部門の役割の明確化と2016/2019に向けた傷害予防、パフォーマンス発揮を支援する環境整備、立案、組織横断的協同事業の提案、実施、そして人材の育成。

- ① 人材育成事業(ラグビートレーナー育成)→・トレーナーセミナー/研修会開催及び地域開催(関西、九州圏)の準備・上級トレーナー養成プログラム実施準備
- ② コーチ部門、ハイパフォーマンス 安全対策委員会との連携
- ③ 代表事業部 TLとの積極的連携
- ④ 女子ラグビーへのトレーナー的支援
- ⑤ 教育・啓発関連資料、出版物の作成、発信それに伴う情報収集。

<具体的な取り組み>

- ① トレーナーセミナー/研修会の地域開催(関西(大阪)、九州圏)の実施
- ② 上級トレーナーを養成プログラム実施
- ③ ホームページおよび関連機関誌を通じて医・科学情報を発信する。
- ④ 日本代表チームのトレーナー環境の整備・支援する。
- ⑤ 教育・啓発関連資料を作成する。

6. 高校委員会

1. 部会の開催

- ① 全国高体連ラグビー専門部全国会議
4月14日(土)常任委員会 於:東京
15日(日)専門委員長会
12月25日(火)常任委員会 於:大阪
26日(水)専門委員長会

- ② 高校委員会会議

10月7日(日) 高校部門会議 於:名古屋

2. 全国高体連関係

- 4月10日(火) 総体検討委員会(東京)
- 4月20日(金) 総体中央委員会(東京)
- 5月22日(火) 評議委員会(東京)
- 6月12日(火) 専門部長・委員長会(東京)
- 9月11日(火) 総体検討委員会(東京)
- 9月20日(木) 総体中央委員会(東京)
- 11月13日(火) 全体会議・専門部長・委員長会(東京)
- 3月19日(金) 評議委員会(東京)

3. 大会関連

- ① 第13回全国選抜大会
平成24年3月31日(土)~4月7日(土)
埼玉県熊谷市:熊谷ラグビー場
- ② ジャパンセブンズ 2012 高校の部
平成24年4月14日(土)
東京都江戸川区:江戸川区陸上競技場
- ③ サニックス 2012 ワールドラグビース交流大会
平成24年4月28日(土)~5月5日(土)
福岡県宗像市:グローバルアリーナ
- ④ 第8回全国高等学校合同チームラグビー大会
平成24年7月31日(火)~8月3日(金)
長野県:上田市菅平高原サニアパーク
- ⑤ 第66回国民体育大会
平成24年10月5日(金)~9日(火)
少年の部:岐阜県関市で開催
- ⑥ 第92回全国高校ラグビー大会
平成24年12月27日(木)~平成25年1月7日(月)
大阪:近鉄花園ラグビー場
- ⑦ 第43回全国高専大会
平成25年1月 兵庫県で開催
- ⑧ 第5回U18合同チーム東西対抗
平成25年1月7日(月)
大阪:近鉄花園ラグビー場

4. 強化指導

- ① 高校日本代表選手の選抜・遠征
- ② U16、U17 ブロックトレセン
全国9ブロックで開催
- ③ U18トライリージョンズ(東・中・西対抗戦)
平成24年6月22日(金)~25日(月)

5. 普及指導

- ① 合同チーム交流大会兼第33回普及指導講習会

平成25年3月(北海道は24年4月)

全国9ブロックで開催

②スキルアップキャンプ2012

平成24年8月3日(金)～8月5日(日) 長野県:菅平

6. 第37回高等学校指導者研修会

平成25年1月11(金)～13(日) 東京・日本青年館

全国9ブロックから2名の参加、研究発表と講演、大学選手権決勝の観戦

7. 高校海外交流

①高校日本代表海外遠征

平成25年3月中旬～

②第20回日韓中ジュニア交流競技大会

平成24年8月 韓国

8. 高校ルール検討委員会

安全を最優先にルールの検証を行う。

9. 安全対策

重傷事故の撲滅。

10. その他

高校部員登録人数を3万人台に回復するように普及活動を推進する。

2019年ワールドカップに向けたユース強化。

セブンズ強化。

高校女子ラグビーの普及と強化。

・IRB・TOP 研修(7月)

南アフリカ

・アカデミーレフリー海外派遣

NZ・ワイカト

・NZRFU アカデミー研修(6月～9月) NZ・ウエリントン

・香港協会交流(10月・3月)

・ドバイ協会交流(11月)

・USA 協会交流

②受入関係

・IRBレフリーアドバイザーの招聘

・IRBレフリーコーチの招聘

・IRBパネルレフリーの招聘

・サニックスユース大会(4月28日～5月5日) 福岡

・日本代表テストマッチ

・香港協会レフリー交流(8月・1・3月)

・ドバイ協会レフリー交流(8・3月)

・USA 協会レフリー交流(8・3月)

3. 三地域レフリー指導

・A・A1レフリー資格者の増大・育成を図る。

①全国高校選抜大会(3月31日～4月7日) 埼玉・熊谷

②サニックスユース大会(4月28日～5月5日) 福岡

③三地域巡回指導(4月～6月) 関東・関西・九州

④三地域トップレフリー研修会(8月中旬) 長野県菅平

4. レフリーコーチ・評価研修活動

①全国高校選抜大会研修会(埼玉 3月31日～4月7日)

②ワールドユース大会研修会(福岡 4月28日～5月5日)

③外招聘レフリーコーチによる巡回指導(8・10・12・2月)

関東・関西・九州

④レベルII講習会(5月・6月) 関東・関西・九州

⑤パネル・三地域レフリー研修(8月) 北海道・長野

⑥パネルレフリー研修会等、適時実施

⑦全国高校大会研修会(12月) 大阪・花園

⑧アカデミー研修

5. レフリー評価、割当、ランキング

①トップレベルのゲームを対象にパネルレフリー・ARを割当し、評価・コーチングを行う。

②評価はデータベースに纏め、そのデータを参考にレフリー部門と海外招聘レフリーコーチとで協議し、レフリーのランキングを決定する。

6. 出版・広報

①ルール伝達講習会(三地域別に開催 6月～7月)

②機関紙掲載

③協会HP活用

④IRBレフリーマニュアル等の整備

7. その他

①委員会活動

定例レフリー部門会(4・5・7・8・11・2月) 東京他

②部門・三地域委員長合同会議(年4回) 東京他

8. 備品等購入

①レシーバー購入

②エンブレム・DVD 購入

③ピンバッチ購入(海外遠征用)

7. 審判委員会

1. レフリー部門

1. パネルレフリー(IRB パネル・A・A1・AR)研修活動

①パネルレフリー研修会(5・9・11月) 東京・NTC

②春季 TL オープン戦への派遣 関東・関西・九州

③AR(アシスタントレフリー)研修会 東京・大阪・九州

④日本代表合宿への参加・・・日時未定

⑤パネルレフリー夏季集中研修 網走市・北見市

⑥日本トップリーグ機構研修会(8月中旬) 東京・NTC

⑦アジアパネルレフリー研修会(8月下旬) 長野県菅平

⑧夏季 TL プレマッチへの派遣 関東・関西・九州

⑨TL 派遣(8～1月)

⑩秋季・TL プレマッチへの派遣 関東・関西・九州

⑪全国大会前パネルレフリー研修会(1月) 東京・秩父宮

⑫冬季 TL プレマッチへの派遣 関東・関西・九州

⑬全国高校大会レフリー研修会(12月下旬) 大阪・花園

⑭全国各種大会派遣(1～3月)

⑮アカデミーレフリー研修会

⑯サッカー協会アカデミー合同研修会(2月下旬) 東京

⑰IRB セブンズ 東京大会(3月) 東京

2. 海外交流(派遣・受け入れ)

①派遣関係

・ワールドセブンズ他(IRB 活動)

・アジア5ネーションズカップ(4～5月)

・ジュニア・ワールド・チャンピオンシップ(6月)アメリカ

・IRB パシフィック・ネーションズカップ(7月)国内

・アジア派遣(アジア圏での国際試合・大会)

2. ルール部門

1. 重点目標

- ①IRB2012 年度ルールの迅速な解釈と対応。質問・意見の集約を的確に行い、IRB との緊密かつ信頼ある関係を構築する。
- ②日本における正しい発展を目指し、ルールの在り様についての議論と IRB への提起を図る。
- ③リーリング・レプリングのレプリ間、地域差、時間差ギャップ解消を図る。
- ④安全性を十分に考慮したルールの啓蒙活動を行う。

2. 具体的な取り組み

- ・4月～5月 ・IRB ルール通達動向の注視及び情報収集
- ・6月～7月 ・ルール通達への対応
- ・8月 ・ルール適用対応

9. 代表事業委員会

<女子日本代表関係>

1. 女子 15人制強化合宿・国際試合
 - ・アジア女子4か国対抗直前強化合宿:4月、5月、6月
 - ・香港戦(東京):5月19日
 - ・アジア女子4か国対抗(中国):7月上旬
2. 女子日本代表 7人制
 - ・アムステルダムセブンズ(オランダ)
:5月19日(土)～5月20日(日)
 - ・スペインセブンズ(スペイン)
:5月26日(土)～5月27日(日)
 - ・世界大学生セブンズ大会(フランス)
:7月11日(水)～7月13日(金)
 - ・上海セブンズ(上海):9月22日(土)～9月23日(日)
 - ・マレーシアセブンズ(マレーシア):10月中旬
 - ・セブンズワールドカップ アジア予選 強化遠征
:10月下旬～11月上旬
 - ・セブンズワールドカップ アジア予選:11月上旬
 - ・ラスベガス セブンズ(アメリカ):2月上旬
 - ・広州セブンズ(中国):3月16日(土)～17日(日)
 - ・IRB Women's Sevens Challenge Cup Hong Kong (香港):3月22日(金)～23日(土)
 - ・IRB セブンズワールドシリーズ 日本大会
エキシビジョンマッチ:3月30日(土)～31日(日)

<7人制日本代表(男子)>

1. IRB セブンズワールドシリーズ 東京大会
3月31日(土)～4月1日(日)
場所:秩父宮ラグビー場
2. U20 アジアセブンズ
強化合宿:6月16日(土)～22日
大会期間:6月23日(土)～24日(日)@マレーシア
3. 世界大学生セブンズ大会
事前強化合宿:7月5日(木)～13日(金)
大会期間:7月14日(土)～15日(日)@フランス
4. 強化合宿 7月16日(月)～20日(金)

5. アジアセブンズシリーズ マレーシア大会
9月1日(土)～2日(日)
6. アジアセブンズシリーズ 上海大会
9月22日(土)～23日(日)
7. アジアセブンズシリーズ タイ大会
10月13日(土)～14日(日)
8. IRB セブンズワールドシリーズ 豪州大会
10月20日(土)～21日(日)@ゴールドコースト
9. IRB セブンズワールドシリーズ ドバイ大会
10月27日(土)～28日(日)
10. セブンズ ワールドカップアジア予選
11月3日(土)～4日(日)@シンガポール
11. IRB セブンズワールドシリーズ 南ア大会
12月1日(土)～2日(日)@ポートエリザベス
12. IRB セブンズワールドシリーズ アルゼンチン大会
2月8日(土)～9日(日)@ブエノスアイレス
13. IRB セブンズワールドシリーズ NZ大会
2月2日(土)～3日(日)@ウェリントン
14. IRB セブンズワールドシリーズ USA大会
2月9日(土)～10日(日)@ラスベガス
15. IRB セブンズワールドシリーズ 香港大会
3月22日(金)～24日(日)
16. フィジー強化合宿
3月1日(金)～11日(月)
17. IRB セブンズワールドシリーズ 日本大会
3月30日(土)～31日(日)@東京
18. トライアウト 5月6日(日)/13日(日)

<U20 日本代表関係>

1. 強化合宿
 - 第二次強化合宿
4月6日(金)～9日(月)@流通経済大学
 - 第三次強化合宿
4月20日(金)～23日(月)@流通経済大学
 - 第四次強化合宿
6月8日(金)～14日(木)@流通経済大学
2. ウェールズ遠征 5月9日(水)～5月25日(木)
 - 5月12日(土) 対戦相手未定
 - 5月16日(水) 対 U20 ウェールズ代表
 - 5月19日(土) 対戦相手未定
 - 5月23日(水) 対戦相手未定
3. ジュニア ワールドトロフィー2012 アメリカ大会
大会日程 6月14日～7月3日
Pool A:トンガ、チリ、ロシア、USA
Pool B:日本、グルジア、カナダ、ジンバブエ
6月18日(月)
第一試合 対 ジンバブエ KO:12時
6月22日(金)
第二試合 対 カナダ KO:14時
6月27日(水)
第三試合 対 グルジア KO:16時
6月30日(日)

優勝決定戦 KO:18時

4. U20 ジュニア ワールドトロフィーアジア予選(香港)
7月28日(土)～8月5日(日)

<15人制日本代表>

1. 日本代表強化合宿
4月2日(月)～7日(金) @静岡・掛川
7月14日(土)～20日(金) @菅平
2. HSBCアジア5ネーションズカップ
4月18日(水)～5月20日(日) 合宿・遠征
4月28日(土) 対 カザフスタン @アルマティ
5月5日(土) 対 UAE@福岡
5月12日(土) 対 韓国@ソウル
5月20日(土) 対 香港@秩父宮
3. IRB パシフィック・ネーションズカップ 2012
5月28日(月)～7月2日(月) 試合&合宿期間
6月5日(火) 対 フィジー@名古屋 KO:19時
6月10日(日) 対 トンガ@日本・秩父宮 KO:14時
6月16日(土) 対 サモア@日本・秩父宮 KO:18時
4. リポビタンD チャレンジ
6月17日(日)～7月2日(月) 試合&合宿
6月23日(土) 対 ロシア@秩父宮
7月1日(日) 対 ロシア@仙台
5. 欧州遠征
10月30日(火)～11月26日(月)
11月10日(土) 対 ルーマニア@ブタペスト
11月17日(土) 対 グルジア@トビリシ
11月24日(土) 対 対戦相手未定

<U18男女7人制代表>

1. ユースオリンピック オーストラリア大会
2013年1月16日～20日

10. 安全対策推進委員会

1. 各委員会・部門と連携し、横断的組織として活動する。
2. 「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及・徹底」を掲げ、安全対策の指導を行う。
3. 重症事故の再発を防止し、重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を行う。
4. チーム責任者等に『重症事故撲滅対策』の意識付けを行い、チーム内においてチームの責任者が事故撲滅の啓発活動の牽引役を担い自ら事故撲滅・安全推進活動を展開できる組織的なサポートを実行する。
5. 「安全推進講習会」の開催により、「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及」の徹底を図る。
 - ①安全推進講習マニュアルDVDの作成と管理
 - ②安全推進講習会講師としてのトレーナーの育成
 - ③安全推進講習会医務関連講師の育成
6. チーム登録資格要件の追加など、速やかに具体的施策を実施する。
7. 重傷事故分析班の活動を更に推進する。

8. 2012年度に向け、また中長期的展望の下、新たな施策を検討、実施する。

9. 普及・啓発活動

外傷・傷害の撲滅を目指し啓発活動の継続的实施。

<具体的な取り組み>

- ・各委員会・部門と連携し重症事故の撲滅に努力する。
 - ・日本協会のHPを利用して、タイムリーな事例を掲載して、啓発する。
10. 調査・検討

IRB 重症報告の基準に従い重症事故データの継続的集計・分析

<具体的な取り組み>

- ・重症傷害報告書、1ヶ月後経過報告書を提出する体制の組織強化を行う。
- ・重症傷害者に関するアフターケアの方向性を模索する。

11. 研修会開催

①スキルアップ研修会

<具体的な取り組み>

- ・8月初旬、菅平において高校生及びその指導者を対象とした講習会に講師を派遣する。

②各都道府県安全対策研修会

<具体的な取り組み>

- ・安全推進講習会運用マニュアルを作成し、研修会のスムーズな運営を図る。
- ・安全対策事業報告書を作成し、各都道府県での研修会後その提出を求める。
- ・三地域及び各都道府県で開催される安全対策講習会に講師を派遣する。

12. セーフティ・アシスタント管理

従来のメディカルサポーター制度の見直し並びにセーフティ・アシスタントとしての新たな制度の運営を図る。

<具体的な取り組み>

- ・各都道府県でのセーフティ・アシスタントの養成状況を把握する。
- ・セーフティ・アシスタント管理に関する認定証・手帳を新たに発行する。
- ・セーフティ・アシスタント講習会のあり方を検討する。

13. 委員会の開催

重症事故の速やかな対応・分析を図るとともに、各都道府県での安全推進講習会の実施状況や次年度の重点項目を策定するため年間5回委員会を開催する。

14. 連携

競技力向上委員会、審判委員会、中学・高校委員会との連携を一層強化し、外傷・障害の減少を図る。

11. 女子委員会

① 第25回女子ラグビー交流大会

期日 11月23日(金)

会場 江戸川区陸上競技場

概要 全国の女子チーム及び高校生が参加

- ② 第92回高等学校ラグビーフットボール大会
エキジビション
期日 12月末
会場 花園ラグビー場
概要 選抜された選手が7人制の試合を行う
- ③ 第14回ジャパンセブンズ大会
期日 2013年3月17日
会場 瑞穂ラグビー場
概要 全国の女子チーム及び高校生が参加
- ④ 15人制セレクションマッチ
期日 11月～25年1月
会場 関東、関西、九州
概要 日本代表を決めるセレクションを行う
- ⑤ 三地域助成金事業
トライアウトなど年間を通じ事業を行う

【特別委員会】

アンチ・ドーピング委員会

IRB規定およびWADA規程を遵守するために、国内ドーピング防止機関であるJADAと連携調整しながら、ラグビーにおける選手、コーチ、トレーナー、チームDr等関係者を対象にして、ドーピング防止活動を行う。平成23年度にドーピング防止規則違反者がでたことから、ドーピング検査対象を拡大し、ドーピング防止教育を強化する。

- ・ドーピング検査を実施する。
- ・ドーピング防止普及啓発活動を展開する。
- ・ドーピング防止教育関連資料の作成・配布する。
- ・JADAとの連携およびその他必要な事業を実施する。

<具体的な取り組み>

1. ドーピング検査

- ・JADAおよびIRBの国内の競技会検査(トップリーグ、全国大学選手権大会、日本選手権大会、国内開催国際大会)に協力して実施する。検査料はtoto助成により実施する。検査の調整監視役としてのNF-Rの派遣を充実する。
- ・7人制ラグビー、女子ラグビーおよび大学定期リーグ戦において新規にドーピング検査を実施する。
- ・JADAおよびIRBの居場所情報管理の対応についての助言を行う。
- ・治療目的使用に係る除外措置申請手続きの助言と指導を行う。

2. ドーピング防止教育啓発活動

- ・JADAのドーピング防止教育啓発活動と連携して役割分担して実施する。
- ・15人制日本代表、7人制日本代表、女子日本代表に対して、チームDrと連携しながら、ドーピング防止教育やドーピング防止講習会を実施する。
- ・各日本代表、トップリーグ各チーム、日本選手権出場チーム、全国大学選手権出場校、および大学定期リーグ戦参加校にドーピング防止関係資料を送付し、情報提供する。

- ・トップリーグや大学定期リーグ戦参加校に対してドーピング防止講習会を実施する。
- ・トップリーグの各チームDrおよびトレーナーにドーピング防止の情報を提供する。
- ・全国高校大会出場校を対象にJADAと協力してドーピング防止啓発活動を実施する。
- ・全国高等学校選抜大会において、ドーピング防止教育啓発活動(アウトリーチ・プログラム)を実施する。

戦略室

JRFU戦略計画に関して以下の業務を行う。

- ① 戦略計画のレビューと修正・追加
 - ② 戦略計画の全国への周知徹底
 - ③ 戦略計画のモニタリングとフィードバック
 - ④ 各地域の取組事例の収集と全国へのフィードバック
 - ⑤ 戦略計画に係る各種調査分析業務
 - ⑥ 競技者登録システムを中心としたデータベースシステムの構築と活用
 - ⑦ その他、戦略計画の実施に伴う総合的な業務
- <重点項目>

- ① 都道府県戦略計画の策定推進とサポート
- ② 市町村協会設立推進とサポート
- ③ 各種プロジェクトの立ち上げと推進
 1. 競技者人口増加
 2. 地域セブンズアカデミー創設
 3. 他団体との連携協力
- ④ モデル事業の創設と推進

RWC2019 組織委員会

<重点目標>

1. RWC2019 組織委員会の一般財団法人化、および公益法人化を行う。
2. 2019年までのマスタープラン(事業計画)及び財務計画を完成する。
3. IRB/RWCLに対し、新しいコマーシャルプログラム提案を行う。
4. 試合・合宿開催地決定スケジュール、およびプロセスを決定する。
5. 大会スローガンの決定、発表。
 - ・大会キャラクター、アンバサダー等の選定。
 - ・日本協会事務局各部内に「2019 コーディネータ」を任命。JRFU内の横断的な活動の実施。
6. 組織委員会の運営に必要な助成金、寄付金等の獲得を行う。
7. RWC2019 大会成功をめざし、アジア各国との協力体制を確立する。
 - ・ARFU(アジアラグビー協会)の中に、RWC2019委員会を設置する。
 - ・アジア加盟国と連携し、データ収集を開始する。

<一般項目>

1 総務部門

(1)財務&税務

- ①予算実績管理
- ②経費処理方法の確立と実施
- ③財務諸表類の作成
- ④税務処理(免税措置調整も含む)
- ⑤助成金、寄付金確保交渉

(2)総務

- ①公文書製作並びに管理(IRB・RWCL・JRFU等関連含む)
- ②諸契約関係管理
- ③各種総務必要書類の作成と運用
- ④JRFU幹部への定期報告資料の作成と報告
- ⑤組織委員会幹部への定期報告資料の作成と報告

(3)人事

- ①スタッフ採用・教育・配置・処遇・社会保険関係・退職金関連作業
- ②労務管理
- ③諸人事制度の整備

(4)組織委員会関連

- ①理事会・評議員会開催関係業務
- ②理事会・評議員会資料の作成・議事録の作成と管理
- ③組織委員会幹部とのスケジュール調整(日程調整・訪問先&訪問者調整等)
- ④組織委員会幹部が必要とする資料の作成
- ⑤組織委員会主催各種イベントへのVIP出席者対応

(5)翻訳&通訳

- ①各種海外文書の翻訳
- ②重要案件協議の際の通訳
- ③各種イベント並びに会議での通訳

(6)公益法人化関連

- ①公益法人化のための書類等準備

2 事業部門

(1)RWCL/IRBとの諸連絡系

- ①電話会議の設定と記録
- ②隔週報告書の作成と報告
- ③RWCL 理事会定期報告書の作成と報告
- ④RWCL/RWC2019 組織委員会調整会議の実施(年1~2回)
- ⑤大会予算の見直しと報告
- ⑥大会収入の免税措置に関する調整
- ⑦その他、RWCLより要求された情報の整理、提出

(2)コマーシャルプログラムの提案

- ①新しいコマーシャルプログラム案の作成。
- ②IRB/RWCL への提案、交渉。

(3)開催地の選定プロセスの調整・決定

- ①全国9ブロックにおけるワークショップ開催。
- ②会場決定スケジュール、プロセスの決定。
- ③RWC2019 試合・練習会場入札概要の作成。

(4)広報・プロモーション

①RWC2019用の広報戦略方針の策定と運用(JRFUと連携)

②国内外プロモーション計画の策定と実施。

③大会スローガンの決定、発表。

- ・大会キャラクター、アンバサダーの選定。
- ・日本協会事務局内「2019 担当スタッフ」の任命。効果を上げるための横断的な活動の実施。

④国内外関係機関への定期的ニュースレターの作成と配信

⑤国内外関係機関へのRWC2019パンフの作成と配布

⑥国内外関係機関へのRWC2019英文ハンドブックの作成と配布

⑦専用サイト(IRB 管理)への記事出稿、および調整

(5)チケット戦略

①チケット販売戦略基本方針の策定

②RWC2019を見越したチケット販売体制の構築着手

③データベースの活用試案着手

(6)プロパティ管理

①ロゴ案の検討(公募含む)

②ドメイン管理

(7)関連部署との連絡調整系

①関係省庁(文科省、観光庁、外務省、財務省等)との交渉&調整

・文科省との定期会議調整・実施

②スポーツ振興センター(NAASH)との交渉&調整

③RWC2019 成功議員連盟との交渉&調整

④国会ラグビークラブとの交渉&調整

⑤地方自治体(開催会場・キャンプ地)との交渉&調整

⑥地域協会&都道府県協会との交渉&調整

⑦日本サッカー協会等競技団体との交渉&調整

(8)ARFU(アジアラグビー協会)との連絡調整

・ARFUへRWC2019委員会を設立する。

・ARFU加盟国と連携し、プロモーション活動を通じてデータベースを収集する。

関東ラグビーフットボール協会

1. メディカル委員会

① 関東医務委員長会議の開催(9月)

② メディカル委員会総会の開催(9月)

③ 日本代表、関東代表、学生代表遠征への医務協力

④ 競技力向上委員会、メディカルコミッテイ部門への参加

⑤ 国際試合(日本協会主催試合含む)の医務協力

⑥ 安全対策委員会、コーチ委員会、レフリー委員会等々と連携し、安全対策の推進に努める。

⑦ 各小委員会活動の推進

2. レフリー委員会

<本年度の目標>

- ・日本協会と連携し、レフリーのスキルアップ
- ・女子レフリーの発掘と育成
- ・関東協会公認レフリー（B級）の発掘・育成と指導
- ・各支部におけるレフリー育成と指導及び支援
- ・各支部におけるレフリーコーチの育成と指導
- ・現役レフリーのマンデー・ミーティングの実施

- ① 諸会議の開催
- ② 関東協会主催の研修会・講習会の開催
- ③ 日本協会主催の各種研修会への参加
- ④ 海外レフリー交流（派遣と受入れ）
- ⑤ 各種公式大会、国体等へのレフリー派遣

3. 安全対策委員会

<本年度の目標>

- ・重症障害の予防に関する啓発活動の実施
- ・プレーヤーの安全に関わる事項の検討と方策
- ・安全対策に関わる講習会の実施——トレーナー
- ・各支部における安全推進講習会の促進
（日本協会安全推進委員会との連携）
- ・メディカルサポーター制度に代わるセーフティアシスタント制度の周知徹底
- ① 菅平高原安全対策啓発活動＝高校生対象のスキルアップ講習会
- ② 関東協会における高度傷害についての動向調査
- ③ 熱中症予防通達についての啓発活動の継続
- ④ 全国安全対策委員長会議の実施
- ⑤ メディカル、登録者傷害見舞金審査委員会等々の関連委員会との連携
- ⑥ 安全対策関係の通達、申合わせ事項の整理と周知徹底
- ⑦ 重症障害ハンドブックの改訂版の発行

4. コーチ委員会

① 指導者養成事業

- ・ブラシアップ研修会
（強化コーチ・育成コーチ・新スタートコーチ）
- ・コーチトレーナー講習会

② 地域推進事業

- ・関東コーチ委員長会議の開催

③ コーチ派遣事業

- ・各支部からの要請に応じて開催
- ・安全なタックル指導講習会の開催

5. 普及育成委員会

<スクール中学生>

① 大会の開催

- ・東日本ジュニアジャンボリー
- ・北海道／東北／関東甲信越ジュニア交流大会
- ・東日本U15大会

- ・東日本中学生大会（ラグビースクールの部）
- ・東日本U15選抜大会（春の選抜）
- ・全国中学生大会（9月、茨城）

② 選抜チームの派遣

③ 選手育成プロジェクト・兼指導者研修プロジェクト

④ 普及活動推進プロジェクト（チーム数増加、選手数増加、空白県への対応）

⑤ 安全対策の継続的強化

⑥ 東日本地域のジュニアラグビーの現状調査と課題抽出

⑦ エイジ制導入と年代別ラグビーの整合性の検討

⑧ 女子選手の発掘と育成

<タグラグビー>

① 小学校教員対象の指導者研修の開催

② 中学校体育種目として導入を目指す

③ タグ普及のための手法として小中高連携授業の徹底

④ タグ地域チームへのサポート

⑤ ラグビースクール低学年への導入検討

<ミニラグビー>

① 大会の開催

- ・北海道ミニ全道交流大会
- ・東北地区小学生交流大会
- ・日本海ミニラグビー交流大会
- ・西関東ブロック・ミニ交流大会
- ・東関東ブロック・ミニ交流大会
- ・菅平ミニ・ジャンボリー交流大会
- ・BBM杯ミニラグビー交流大会

② 指導者講習会の開催（各地）

③ 指導者講習会の統一テーマ

- ・勝利至上主義の台頭への警鐘。
- ・RS創設時の理念の継承ができていない。
- ・新旧指導者間の交流が少なくなっている。
- ・将来ある子供たちに対する責任感の欠如。

<中学校>

① 大会の開催

- ・関東中学校大会
- ・東日本中学校大会
- ・全国ジュニアラグビー大会
- ・東日本菅平ジャンボリー大会
- ・全国中学生大会（9月・茨城）

② 交流試合の開催

- ・春季東北中学校交流大会
- ・東北中学生交流大会
- ・中学校－中学生ラグビースクール交流戦
- ・東日本U15ジュニアラグビー選抜大会

③ 各種講習会、研修会への参加

④ 中学校委員会の開催（関東地区、東北地区）

- ⑤ 目標・各都道府県の中学校体育連盟へ加盟し、地域の中体連の活動に参加。
- ・関東中学校大会への中体連公園の申請。

6. セレコン強化委員会

<テーマ>

- ・底辺の拡大とレベルアップ
- ・一人でも多くの選手をジャパンに

<代表チームの編成>

- ① 関東代表(三地域対抗戦への出場)
- ② 関東代表の海外遠征(4/14～29、NZ)
- ③ 関東学生代表
- ④ 関東高校選抜

7. 社会人委員会

- ① 各種大会実施
 - ・YC&ACセブンズ(4/1)
 - ・東日本都道府県対抗大会(岩手県八幡平市)
 - ・国民体育大会ブロック大会(東京都)
 - ・トップリーグ、トッピーズリーグ、関東社会人リーグ
- ② チームとの意見交換会
- ③ レフリーとの意見交換会
- ④ 東北社会人委員会との意見交換会(大震災以後の社会人ラグビーの普及と発展)

8. クラブ委員会

1) 普及活動

高校生・大学生の卒業後のラグビーの受け皿としての、役割を再認識し、各県クラブ委員会と連携し、高校生・大学生へのクラブの認知度の向上をはかり、高校生・大学生のクラブへの加入を促進する。また、「組織力のあるクラブチームの育成」「魅力ある大会づくり」「安全なラグビー」を実現し、ラグビーの普及をはかる。

①高校生、大学生への認知度のアップ

- ・高校生との合同練習の実施
- ・高校生へのラグビー指導
- ・高校の先生と連携し、卒業生のフォローアップ
- ・大学クラブと協力し、新入学生へのチラシ配布・メール等による勧誘活動。

②組織力のあるクラブチームの育成

- ・チーム名に「地域の名前を冠する」など様々の方法で地域に寄り添い、地域・行政との連携を深め、地域の方々へのラグビーへの理解を深める。
- ・地域の青少年へのラグビー指導、ラグビー精神の伝達を行い、青少年の健全育成に貢献し、地域・行政から尊敬を受ける存在となる。
- ・クラブ運営のノウハウの伝達と、クラブ運営の人材の確保と育成をはかる。
- ・クラブの法人化(一般財団法人・NPO法人)をはかり、組織強化をはかる。

③「魅力ある大会づくり」

「全国大会」「地域トップクラブ大会」をさらに魅力ある大会とし、社会人・大学生・高校生のトップレベルの選手の受け皿として機能を高めクラブの強化と普及をは

かる。

- ④1人でも多くの選手がラグビーができる環境をつくる。県大会等のレベルの大会では、人数が足りないチーム、スタッフ・指導者がいないチーム・選手でも、試合に参加できる大会づくりを行う。

⑤安全なラグビーの実現

- ・安全教育の徹底
- ・無理のない大会づくり
- ・レフリーの養成と向上をはかる

レフリー養成では、クラブは「帯同レフリー制度」を10年前より実施しレフリーの養成に力を注ぎ、多くのレフリーを輩出してきたが、安全の観点からも「帯同レフリー制度」をさらに進めレフリーの養成に努める。

2) パートナーズクラブを核として「7人制ラグビーの普及・強化」

2011年度は、パートナーズクラブの講習会が開催され、パートナーズクラブのレベルアップにつながった。パートナーズクラブが獲得した、指導法等のコンテンツを、地域協会、県協会を通して、他のチームへ伝達し全体のレベル・意識をあげる。

3) クラブ大会の開催

- ①第20回全国クラブ大会 会場:熊谷、秩父宮
優勝チームは日本選手権への出場権を獲得する。
※20回大会を記念し、全国大会を通しての「普及」「強化」のためのカンファレンス・懇親会を実施。
- ②学生クラブ東西交流フェスティバル IN 普平2012
・学生実行委員会を組織し、学生自身が主体的に関わり大会運営を行う。
 - ・単なる競技会ではなく、学生向けのレフリー講習会、安全対策講習会、スキルアップ研修会などを組み込んで学生クラブの資質の向上を図る。
- ③2012年度全国学生クラブ選手権大会(トライアル)
 - ・1回戦、12月中旬(熊谷)、決勝戦、1月6日(秩父宮予定)
 - ・関東-関西-九州の学生クラブの代表チームによる大会を実施し、学生クラブの普及・強化をはかる。
- ④第9回クラブユース交流試合(兼:クラブユースU-19)
 - ・24年3月中旬(兵庫・神戸製鋼所予定)
 - ・ラグビー部のない高校生がラグビーをやる場として、各地域に高校生のためのクラブ組織が誕生している。公式な試合会場の提供によるクラブユースの普及発展と拡大、大会の認知向上を図る。

9. 女子委員会

- ①女子大会の開催(第23回東北・北海道交流大会、第23回関東女子大会、第6回ガールズフェスティバル、第4回関東地区7人制大会、等々)
- ②ユースチームの合宿、遠征
- ③高体連登録の女子チームの推進、支援
- ④全国高校選抜大会での女子7人制の部新設
- ⑤女子選手への安全対策講習会(選手、父兄)

⑥女子ラグビーの社会的認知度の向上

10. 大学委員会

- ① 大学公式戦実施(対抗戦・リーグ戦・地区対抗・北海道・東北、医歯薬)
- ② 大学ジュニア選手権大会実施
- ③ 第1回関東大学交流戦(対抗戦ーリーグ戦)の実施(春季)
- ④ U20強化対策実施
- ⑤ 委員会の開催、日本協会大学委員会との連携
- ⑥ 諸会議の開催

11. 高校委員会

- ① 各種大会の実施
 - ・ジャパンセブンズ高校の部(江戸川、4/14)
 - ・関東高校代表ー九州高校代表戦
 - ・地区大会(北海道／東北／関東／北信越)
 - ・U17ブロックトレセン、講習会
 - ・ブロック国体(予選会)
 - ・国民体育大会少年の部への参加(岐阜)
 - ・全国高校大会参加
 - ・全国高校選抜大会地区予選会
 - ・関東都県対抗戦、新人大会の開催
 - ・全国高校選抜大会参加(4/1～、熊谷)
- ② 普及指導講習会の開催、ブロック別少人数制の大会
- ③ 高校ラグビー指導者研修会
- ④ 全国高校選抜大会の主管と準備会議の実施
- ⑤ 関東高校代表チームの編成、強化遠征試合
- ⑥ 高等専門学校の普及強化に向けた事業
- ⑦ 女子高校ラグビー部の育成と強化

12. ツアー委員会

- ① 海外遠征申請手続き
- ② 来日チーム許可申請手続
- ⑤ 来日チームへのリエゾン活動

13. 広報委員会

- ① 刊行物の公刊
 - ・関東協会年鑑「協会年鑑2012ー2013」の作成と配布。
 - ・関東協会年鑑「役員名簿」の作成と配布。
 - ・試合日程メンバー表の作成と一般頒布
 - ・日本協会機関誌へ「関東協会だより」を執筆掲載。
 - ・日本協会広報活動への協力
 - ・関東協会ポスターの作成(JR東日本首都圏管内の駅貼り実施)
 - ・秩父宮ラグビー体験会の実施
 - ・秩父宮観戦サービスとプレゼントの実施。
 - ・小学校、中学校、教育委員会への児童、生徒の団体観戦案内。
 - ・関東協会「ホームページ」の運用

- ・試合当日の「メンバー表」の一般配布
- ・報道各社への「プレスリリース」の配信と試合後の記者会見の実施
- ・関東協会主催、主管試合の管理
- ・日本協会主催試合のサポート

14. 観客動員委員会

- ① 対抗戦A、リーグ戦1部全16校による開会式実施。
- ② 大学ポスター作成と一般ファンへの配布。
- ③ 試合前の校歌の斉唱の実施
- ④ プロモーションビデオの作成。
- ⑤ 選手名鑑の作成。
- ⑥ スポンサーの確保
- ⑦ 大学生部員の就職ガイダンスの実施
- ⑧ その他

15. 登録者傷害見舞金審査委員会

- ① 傷害報告書・見舞金請求に対し、毎月審査委員会を開催。
- ② 傷害報告を分類し、安全対策資料としてまとめて報告する。
- ③ 収支明細及び見舞金支給者名簿を作成し、日本協会へ報告。
- ④ 新たな見舞金制度の研究

16. 選手資格審査委員会

- ① 移籍に関する規約の遵守(トップリーグ規約による手続)
- ② トップリーグ以下の社会人チームにもトップリーグ規約を適用し、資格審査委員会で判断する。
- ③ 外国人選手新規登録審査(日本協会規約による手続)

17. 規律委員会

- ① 競技規則、トップリーグ表彰懲罰規程に準拠した不行跡、不規律の措置。
- ② シンビンの計数ならびに公開、イエローカード累積3枚時の措置。

18. 総務法務委員会

- 関東協会の諸規定の整備
- ① 租税公課に関する対応
 - ② 労務管理
 - ③ 法令遵守(コンプライアンス)
 - ④ 日本協会との組織統合に関する対応
 - ⑤ その他

19. 競技委員会

- ① 公式戦の日程調整と決定
- ② 公式大会の主催・主管
- ③ 公式戦への担当理事の派遣と、競技役員決定と派遣

- ④ ボール系の選定と派遣依頼
- ⑤ 競技委員の発掘と育成(派遣依頼)
- ⑥ 競技運営マニュアルの作成と習熟度の向上
- ⑦ 危機管理担当チームの強化

関西ラグビーフットボール協会

1. 医務委員会

- ①総会 (25年2月頃 場所未定)
- ②総務部会 (7月・11月 場所未定)
- ③マッチドクター養成セミナー (6月頃 クライトン)
- ④リーグ医師派遣会 (7月 場所未定)

2. レフリー委員会

- ①総務委員会 (8回 関西協会)
- ②委員長会議 (6月・11月 場所未定)
- ③主要試合レフリー会議 (8月・25年3月 場所未定)
- ④アセッサ・コーチ会議 (8月・25年3月 場所未定)
- ⑤シーズン総括会議 (25年3月 場所未定)
- ⑥B級認定講習会 (4~6月 各地区)
- ⑦Bトップ研修会 (5月 天理)
- ⑧アセッサ・コーチ講習会 (5月 大阪)
- ⑨ブラッシュアップ研修会 (8月 神鍋・数河)
- ⑩三地域トップレフリー研修会 (8月 菅平)

3. 強化・セレクション委員会

- ①委員会 (12月、25年1・2月)
- ②関西代表セレクション会議 (2月 花園ラグビー場)
- ③各試合視察 (9月~25年2月 花園ラグビー場他)

4. コーチ委員会

- ①総務部会 (6月、25年1月 関西協会)
- ②トップチームコーチ会議 (7月 場所未定)
- ③コーチ委員長会議 (25年2月 場所未定)
- ④育成コーチブラッシュアップ講習会(日程、場所未定)
- ⑤強化コーチ養成派遣(7月下旬 国立オリンピックセンター)

5. 普及育成委員会

- ①運営委員会 (4回 関西協会)
- ②タグ部門会議 (5回 関西協会他)
- ③ミニ部門会議 (5回 関西協会)
- ④ジュニア委員会 (4回 関西協会)
- ⑤関西ジュニアブロック長会議 (4月 関西協会)
- ⑥ミニ・ラグビー指導者講習会 (25年3月 奈良県)
- ⑦関西中学生大会実行委員会
(9月・25年2月 関西協会)
- ⑧関西中学生大会運営委員会 (日程未定 関西協会)
- ⑨全国ジュニア実行委員会 (5月・25年1月 関西協会)
- ⑩全国ジュニア運営委員会 (日程未定 関西協会)
- ⑪四国ラグビースクール協議会夏季研修会
(8月11日~12日 高知県)
- ⑫近畿ブロック指導者研修会 (下期 場所未定)

- ⑬東海・北陸ブロック指導者研修会 (下期 場所未定)

6. 安全対策委員会

- ①総務委員会 (2回 関西協会)
- ②委員長会議 (25年1月 花園ラグビー場)
- ③常任委員部会 (10月・25年1月 関西協会)

7. 社会人委員会

- ①総会 (6月23日 ホテルクライトン江坂)
- ②委員会 (日程未定 関西協会事務所)

8. クラブ委員会

- ①クラブ委員会 (8回 関西協会他)
- ②クラブ大会実行委員会 (日程未定 関西協会)
- ③クラブ委員長会議 (9月15日 岡山県美作市)
- ④クラブカンファレンス (9月15日 岡山県美作市)

9. 大学委員会

- ①総会 (7月 近畿大学)
- ②委員会 (日程未定 関西協会)

10. 高専委員会

- ①全国高専大会実行委員会 (10月・12月 神戸高専他)
- ②代表者会議 (25年1月3日 グリーンヒルホテル神戸)

11. 高校委員会

- ①委員会
(4月 フロラシオン青山、12月 大阪キャッスルホテル)

12. 主要試合スケジュール並びに放送調整会議

- (4月・6月 関西協会)

13. 広報委員会

- ①委員会 (7月下旬 関西協会)
- ②関西協会シーズン開幕記者懇談会
(9月初旬 場所未定)

14. ツアー委員会

- ①委員会 (3月上旬 関西協会)
- ②国際試合帯同 (日程、場所未定)

15. 傷害見舞金審査委員会

- (毎月第2木曜日、(8月除く) 関西協会)

16. 女子委員会

- ①各部門セレクション (4月 場所未定)
- ②各部門会議 (日程未定 関西協会)
- ③レフリー研修会 (日程、場所未定)

<各種大会予定>

- 1. 各府県ラグビー祭・カーニバル等有料試合
(府県別日程)

2. 第3回関西・一宮セブンズ
(5月12日～13日 愛知県一宮市) (9月～10月 愛知・京都・岡山・徳島)
近畿クラブリーグ
(10月～2月 近畿2府4県)
3. 第6回関西まつり
(5月6日 花園ラグビー場)
4. 普及育成委員会
第33回関西中学生大会
(7月27日～29日 岐阜県数河高原)
第14回関西中学生ジャンボリー大会
(7月27～29日 岐阜県数河高原)
第6回関西ミニ・ジャンボリー大会
(6月23日～24日 淡路佐野運動公園)
第16回中四国ジュニア・ラグビー大会
(8月下旬 高知県)
第14回近畿スクールジュニア交流大会
(11月 奈良県)
第18回全国ジュニアラグビー近畿予選
(11月 奈良県)
第5回関西スクールジュニアラグビー新人交流大会
(25年3月下旬 兵庫県)
関西タグフェスティバル長浜ドーム
(5月26日 滋賀県長浜市 長浜ドーム)
サントリーカップ近畿ブロック予選
(25年1月 和歌山県ビッグホエール)
ラグビーマガジン Cup 関西ミニラグビー大会2012
(10月14日 場所未定)
サントリーカップ全国タグブロック予選
(地区別日程)
5. 社会人委員会
トップウェストリーグ戦
(9月～12月 花園・瑞穂 他)
トップチャレンジシリーズ
(25年1月 花園ラグビー場)
トップウェストリーグ 入替戦
(25年1月 鶴見緑地 他)
トップウェストリーグ チャレンジマッチ
(12月 場所未定)
6. クラブ委員会
第24回関西クラブ大会
(9月 岡山県美作市)
第5回 関西クラブトーナメント大会
(10月～11月 近畿・東海・中国)
第8回 関西学生クラブ セブン・ア・サイド選手権大会
(日程、場所未定)
第3回 関西トップクラブリーグ
(10月～11月 愛知・大阪・兵庫)
第3回 関西トップクラブリーグ入替戦
(12月5日 愛知・大阪・兵庫)
各ブロック大会
7. 大学委員会
関西大学リーグ
(9～12月 花園ラグビー場 他)
関西大学リーグ入替戦
(12月 宝ヶ池 他)
第54回関西医歯薬大学大会
(4月～5月 兵庫県・奈良県)
8. 高校委員会
第10回 関西高校少人数ラグビー交流大会
(6月16日～17日 大阪体育大学)
第5回近畿公立高校大会
(25年2月16日～17日 天理大学白川グラウンド)
9. 女子委員会
第15回 関西交流大会
(日程、場所未定)
関西女子交流大会
(9月 場所未定)

九州ラグビーフットボール協会

1. レフリー委員会

- ・各県委員長会議:
6月大分・12月福岡・H25.2月沖縄
- ・レフリー研修会・認定講習会
九州地区トップレフリー研修会(8月・湯布院)
九州地区B級レフリー研修会及び認定講習会(8月未定)
三地域トップレフリー研修会(8月菅平)
- ・有望レフリー発掘事業(5月～6月)
- ・各県巡回指導研修会(H25.1月～3月)
- ・コーチ・アセッサ-研修会(未定・福岡)
- ・レフリー評価委員会(H25.2月)
- ・各種主催・主管大会へレフリーの派遣・各県試合会場

2. 社会人委員会

- ・第50回木元杯全九州7人制大会(4月14～15日・福岡)
- ・トップキュウシュウリーグ加盟チーム代表者会議(8月・福岡)
- ・第32回九州地区国民体育大会(成年)
(8月25日～28日・沖縄)
- ・第41回トップキュウシュウリーグ (9月～11月・各地)
- ・トップリーグチャレンジ1・2(12月～H25.2月・未定)
- ・トップキュウシュウリーグA・B入替戦(12月16日・未定)
- ・トップ九州リーグ代表者会議(H25.2月・福岡)

3. クラブ委員会

- ・各県委員長会議(6月・福岡、11月・熊本)
- ・九州感大会(5月26日～27日・大分)

- ・第8回九州トップクラブリーグ(9月～11月・各地)
- ・第38回クラブ・実業団大会(11月17日～18日・熊本)
決勝戦(12月2日・未定)
- ・九州トップクラブリーグ入替戦(12月16日・福岡)

4. 大学委員会

- ・第51回九州山口医科系大学大会
(4月28日～5月5日・宮崎)
- ・九州学生春季リーグ戦(5月・福岡)
- ・九州学生強化・リーダ講習会(5月下旬・福岡)
- ・第51回九州商経大学大会(未定)
- ・第62回九州地区大学大会(6月29日～7月3日・大分)
- ・第20回九州学生リーグ(9月～11月・福岡他)
- ・九州学生リーグジュニア戦(9月～11月・福岡他)
- ・第12回九州地区対抗大学大会(Ⅲ部優勝決定戦)
(11月17日～20日・沖縄)
- ・九州学生リーグ入替戦(12月上旬・福岡)
- ・各県委員長会議(7月・12月・福岡)

5. 高専委員会

- ・高専チームリーダ講習会(3月30日～4月1日・八代)
- ・第21回九州高専新人大会(5月12日～13日・久留米)
- ・各県委員長会議(11月9日・大分)
- ・第49回九州高専大会(11月10日～13日・大分)

6. 高校委員会

- ・交流試合 東日本高校代表 vs 九州高校代表
(4月14日・東京)
- ・サニックスワールドユース交流大会(4月28日～5月5日・福岡)
- ・九州高体連ラグビー専門部委員長会議(6月16日・大分)
- ・第65回全九州高校大会(6月16日～19日・大分)
- ・夏季九州高校1・2年生一次強化指導会
U17 全国高校合同チーム大会直前合宿
(7月7日～9日・湯布院)
- ・第32回九州地区国民体育大会(少年)
(8月25日～27日・沖縄)
- ・第92回全国高校選手権大会各県予選(10月～・各県)
- ・第4回九州U16・U17交流会(12月15日～16日・福岡)
- ・サニックス2013ワールドユース交流大会 予選会
(H25.1月2日～5日・福岡)
- ・九州高校委員会及強化委員会(H25.2月23日・沖縄)
- ・第35回木元杯全九州高校新人大会
(H25.2月23日～27日・沖縄)
- ・U17九州選抜候補合宿
(H25.3月16日～18日・湯布院)
- ・第14回九州高校10人制大会
(H25.3月23日～24日・長崎)
- ・その他強化合宿(夏・春)・指導会・各県委員長会議

7. コーチ委員会

- ・各県委員長会議(7月、12月・福岡)
- ・九州協会トップコーチ会議

- 兼強化コーチブラッシュアップ研修会(7月・福岡)
- ・育成コーチ養成講習会(H25.2月・熊本、福岡)
- ・ブラッシュアップ講習会(要請に応じて随時開催)
- ・新スタートコーチ養成講習会(要請に応じて随時開催)
- ・その他コーチ委員会として必要な事業(随時実施)

8. 中学生委員会

- ・各県委員長会議(4月・8月・10月)
- ・ジュニアインストラクター会議(10月6日～8日・熊本)
- ・ジュニアラグビー指導者講習会(随時実施)
- ・第25回新島旗九州中学校ラグビー大会
(8月1日～3日・大分鯛生)
- ・第34回新島杯九州ジュニアラグビー大会
(8月3日～5日・大分鯛生)
- ・第13回九州ジュニアブロック大会(10月6日～8日・熊本)
- ・第14回九州ジュニアラグビーチャンピオン大会
福岡チャンピオン(H25.1月19日～20日)
長崎(島原)チャンピオン(H25.2月23日～24日)

9. 普及委員会

- ・普及育成担当者研修会委員会(4月下旬・福岡)
- ・タグフェスタIN
佐賀(5月)・鹿児島(10月)・大分(10月)・沖縄(10月)
島原(10月)・熊本(10月)・宮崎(10月)・福岡(11月)
- ・タグ指導者講習会
福岡(7月)・長崎(7月)・熊本(7月)・沖縄(7月)
大分(8月)・鹿児島(8月)・佐賀(8月)・宮崎(8月)
- ・第39回九州少年ラグビー交歓会(8月24日～26日・阿蘇)
- ・ミニ・ラグビー交流大会
第13回西九州交流大会(9月9日・未定)
第13回東九州交流大会(11月4日・未定)
第12回南九州交流大会(12月中旬・鹿児島)
第5回沖縄県交流大会(未定・沖縄)
- ・ミニ・ラグビー指導者講習会
鹿児島(5月)・福岡(5月)・大分(7月)・長崎(7月)
宮崎(7月)・佐賀(8月)
- ・はじめてのラグビーボール
鹿児島(6月)・長崎(9月)・佐賀(10月)・福岡(11月)
宮崎(11月)・大分(12月)・沖縄(H24.3月)
- ・第7回九州女子タグラグビー大会(12月・未定)
- ・第9回サントリーカップ全国大会予選
大分(11月)・佐賀(11月)・長崎(11月)・熊本(11月)
鹿児島(12月)・福岡(12月)・宮崎(12月)
沖縄(H24.1月)
沖縄ブロック大会(H25.1月中旬・沖縄)
九州ブロック大会(H25.1月下旬・佐賀)
- ・TRI+TRR研修会(6月・未定)

10. 安全対策委員会

- ・安全推進講習会(4月～5月)
- ・安全推進キャンペーン(7月～8月)
- ・安全推進講習会伝達(H25.1月)

- ・九州安全対策委員長会議(H25.3月)
- ・メディカル・安全対策委員会合同総会(H25.3月)

11. 強化・セレコン委員会

- ・トップキュウシュウリーグ A、九州学生リーグ視察(9～12月)
- ・強化・セレコン委員会(九州代表セレクト会議)(H25.1月)
- ・九州代表試合関係
 - 三地域対抗対関東(未定)
 - 対関西(未定)

12. 総務委員会

- ・会員名簿の作成(7月)
- ・主要スケジュール・メンバー表の作成・配布
- ・九州及び各県主催公式試合の編成・発行
- ・各新聞における関係記事のスクラップ

13. 広報委員会

- ・日本協会機関誌「協会だより」への投稿(年5回)
- ・九州協会ホームページの更新(都度更新)
- ・各県広報委員長会議(年2回)
- ・トップリーグ共同記者会見の開催(8月)
- ・各メディア(新聞・TV)との意見交換会(11月)
- ・各メディアへの情報発信、情報交換(随時)
- ・各県公報委員の福岡派遣(トップリーグ開催時)

14. メディカル委員会

- ・公式戦へのマッチドクター派遣(4月～H25.3月・開催県)
- ・公式戦指定試合のドーピング検査
 - (4月～H25.3月・開催県)
- ・日本代表チーム帯同医師派遣協力
- ・総務委員会(9月、H25.3月・福岡)
- ・安全対策委員会との合同総会(H25.3月・福岡)
- ・トップリーグ・メディカルコントロール(開催県)

15. 個人登録制度(傷害見舞金共済運営事業)

<登録>

- ・指定システムにてチームより各県協会経由5月31日まで登録・期中の追加登録は都度受付ける。
- ・登録状況を理事会に報告(理事会開催時)

<傷害見舞金>

- ・審査委員会は年12回開催・結果は理事会に報告(理事会開催時)
- 運営委員会は年1回以上開催